派遣先所属　福島県教育庁財務課施設財産室　　氏名　山下　亮
派遣期間　　平成２４年４月１日～平成２５年３月３１日

１　派遣業務の内容、現況

派遣先の財務課施設財産室では主に、県立学校施設等に関する業務を行っています。そのなかで私は主に、災害復旧事業に関する業務に就いています。これは震災により県立学校施設等が被災を受けたため、早期復旧をするための業務です。震災から１年半が過ぎ、小規模復旧工事については約９割強で復旧工事が完了していますが、大規模な補修復旧工事、改築復旧工事については、今年度に災害査定の受検をした事業もあり、これから工事に着手する建物があるのが現状です。

今回、３．１１と４．１１の大地震を経験して、いわき市方面では後者により更に被害が拡大した状況であり、県立学校施設の査定の時期、復旧時期について他市にある県立学校施設より復旧が遅れているのが現状です。

福島県では、高等学校９０校、特別支援学校２１校の計１１１校あり、９２校（被害なしの１０校及び原発事故による制限区域に在る９校を除く。）に被害が生じ、発注（予定）件数で１，０００件弱、被害額で２００億円弱と被害が多かったこと、改築復旧となる建物が校舎を含め大半を占めている学校などもあり、災害査定の受検の準備が整わず、１年経っても解体工事に着手できない状況でした。

また、原発事故による影響もあるため、制限区域内の県立学校施設等の被害の状況・被害額については、現在でも不明なところです。

災害査定の受検は１年半が過ぎ、原発事故による制限区域に在る９校を除く学校については終了し、順次、工事の発注をしています。生徒達のため、地域のためにも早期の復旧が急がれています。

被災を受けた学校（奥の建物は仮設校舎）

担当業務は災害査定の資料作成から受検、災害復旧工事（委託）の発注・工事・予算の執行管理などを行っています。

具体的に災害査定の資料作成については、改築事業となる案件のものを担当し、国庫負担対象工事費の積算、根拠資料の作成を行っていました。改築事業となる案件での今年度の災害査定の受検では、対象校４校で、約１５億円（改築部分に限る）を超える国庫負担対象工事額の査定額となりました。査定期間中は現場にて査定を受検し、夜、県庁に戻り疑義のあった事に対しての対応方針の検討、求められた資料作成等を行い、次の日に別の案件の査定の受検といった繰り返しでした。期間中は慌しく、多忙な日々でした。個人的には災害査定の受検の業務は初めての経験であり、また、今年度の災害査定では、根拠資料の部分について精細に求められていたこともあり、数十億の申請額、事業内容を認めてもらうことへの責任が重かったです。

また、災害復旧工事（委託）の発注・工事・予算の執行管理については、災害査定の受検が終了したものから土木部営繕課にて発注設計図書を作成していただき、順次発注する形であり、どの工事が発注し、契約となったのかなどの管理をしています。さらに災害復旧事業と平行して、耐震改修事業、大規模改造事業も同時に行っており、土木部営繕課、建設事務所に協力をしていただきながら、復旧を進めています。昨年度からの繰越を含め、約１００以上の事業が進行中、予定がされています。その執行管理（工事・予算の関係）の中で、一筋縄ではいかない複雑な問題が多々あり、教育庁としての判断を求められます。回答に頭を悩ます日々ではありますが、充実した業務を遂行しています。

災害査定の様子（机上）

災害査定の様子（現地）

担当業務では主に、土木部営繕課、建設事務所、学校との調整がほとんどで、学校の生徒さんと直接係わることはありませんが、現場ですれ違った際に、元気にあいさつをしてくれました。誰のための復旧であるのか再確認をするとともに、早期復旧のため引き続き業務を遂行したいと思います。

２　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

私は福島市内での生活をしておりますが、目に留まる被害というのは既に、復旧、復興しており、通常どおりになってきていると感じるのですが、除染作業については、まだ終了には至っていない状況にあります。南相馬の浜の方面ではがれきの撤去・収集作業が進められています。警戒区域の解除となった地域では、倒壊した建物が一部そのままであり、人の手入れの届かなくなった場所では、人の背丈以上に伸びきった雑草が生え、歩道のスペースが覆われているところもあります。津波被害を受け、がれきの撤去が終わっていた水田には、緑のじゅうたんのように草が生えています。そのシーンを切り取って見ると、緑豊かで穏やかな風景であると感じられますが、どこか寂しく、虚しさを感じました。

復興が進んでいると肌で感じたのは、現場の行き帰りで高速道路を利用する機会があるのですが、凹凸のあった道路が平坦になっているのがわかり、工事箇所が着々と変わっていることでした。一方で、こころが痛くなる場面がありました。それは、ある日高校生達の会話が耳に入りました。その高校生達は久しぶりに再会をし、生活状況（今までどこに避難し、現在避難している所、学校を退学し、通信制の学校に通っているなど）について話をしていました。そのことを聞いた時、目には見えない被災の状況を感じ、改めて、今回の震災の影響というものを感じました。

南相馬市の風景